

「フィンドレー大学への協定留学（交流留学）月例報告書 8月分」

留学先大学：フィンドレー大学
氏名：堀 萌香

1. はじめに

みなさん、初めまして。国際文化学科3年の堀萌香と申します。大学では、日本語教員養成課程を履修しており、多文化共生・日本語教育について学んでいます。私はアメリカのフィンドレー大学に留学しています。

今回は、留学初日の出来事や新入生オリエンテーションの様子、休日の過ごし方について報告したいと思います。

2. 留学初日

私は、羽田空港からデトロイト空港までの直行便を選択しました。手荷物検査や受託手荷物検査では、サイズや液体の量など様々な規制がありましたが、事前に確認していたので、超過料金を払わずに済みました。フライト時間は約12時間で、事前に準備していたので入国審査もスムーズに行うことができました。しかし、約束の時間になっても迎えるバスが来ない、他の日本人留学生が迷子になった、など様々な理由で、空港には3時間ほど滞在することになってしまいました。大学に向かう途中で、最低限必要なもの（ベッドカバー、枕、掛け布団、等）を買いに行きました。学生寮やシェアハウスには机やクローゼット、ベッドだけがある状態で、そのサイズに合ったシャツなどを買う必要がありましたが、なかなかぴったりのサイズが見つからなかったり、みんな同じものを買うので品切れになったりしたため、私の場合はワンサイズ大きいものを買うことになりました。結局、大学に到着したのは23時くらいだったと思います。到着後、国際交流センターでウェルカムパーティーが行われ、軽く食事を取ったり、ビデオゲームをしたりしました。人によって、シェアハウスの場所が異なるため、順番にバスに乗って自分のシェアハウスに向かうことになりました。シェアハウスに着いたのが深夜2時で、そこから荷物の整理、ベッドの準備をして朝4時に就寝しました。次の日は9時から予定が入っていたので、みんな寝不足という状態でとても大変でした。



3. 新入生オリエンテーション

授業開始までの約1週間、フィンドレー大学では新入生オリエンテーションとして、様々なイベントが開催されました。これらは、手続きの方法や大学の仕組みを知る、学部・学年を超えてフィンドレーファミリーとしての絆を深める、新しい友達をたくさん作る、といった様々な目的で行われたものです。学部説明や手続きに関しては、難しい単語が出てきた



り、話すスピードが速かったりと、その場で理解できないことが多く、たくさん事務局やサポートセンターに相談しに行きました。もともと、交流留学生の担当者だった方がいなくなってしまったこともあり、こちら側も大学側も混乱している自分の相談内容を上手く伝えることができない、返答が聞き取れない、どこに相談に行けばわからないなど、様々な苦労を経験しましたが、なんとか手続きを済ませることができました。

4. 休日の過ごし方

先週は、バングラディッシュ出身の友達の家遊びに行きました。サリーを着て写真を撮ったり、バングラディッシュの有名な料理と一緒に食べたりしました。初めて食べたバングラディッシュの料理は、とてもスパイシーでしたが、美味しかったです。今度は、バングラディッシュのスイーツを作ってくれるということなのでとても楽しみです。

フィンドレー大学の周りは公共交通機関があまり発達していない為、タクシーを頼むか、友達の家に乗せてもらわないと出かけることができません。ダウンタウンまでは徒歩 20 分、1 番近くのスーパーに行くなら徒歩 30 分ほどかかります。この日は、友達が車を出してくれ、古着屋さんとメキシコ料理店に行きました。フィンドレーでは 10 月に初冬の気温になるため、早めにダウンや長袖を買う必要があると言われました。半袖 T シャツは大学のイベントで 5~6 枚ほどもらっていたので、今回は寒い冬を乗り越えるためにダウン 1 着とパーカー、ジーンズを購入しました。



5. 終わりに

今回は、留学初日の出来事、新入生オリエンテーションの様子、休日の過ごし方について報告しました。次回は、授業や食事といった普段の生活について報告したいと思います。